

道南太平洋海域スケトウダラニュース

平成14年度 第3号

2002年11月8日

北海道立函館水産試験場室蘭支場

Tel: 0143-22-2327

Fax: 0143-22-7605

道南太平洋スケトウダラ計量魚探調査結果

函館水試調査船金星丸により行われたスケトウダラ計量魚探調査の結果をお知らせします。

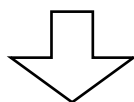
- ・調査期間：平成14年10月30日～11月1日
- ・調査海域：道南太平洋の水深100～600m海域

天候不良のため、日高海域の調査は実施できませんでした。

分布の中心は地球岬から 苫小牧沖

分布水深は300m前後

スケトウダラの平均反応量は9月並みの低い水準



- ・魚の分布量は依然低い水準
- ・魚群の本格的な来遊は昨年同様12月以降の予想

1. スケトウダラは水深300m前後の等深線にそって帯状に分布していました（図1、2）。
2. 魚群反応は地球岬から白老沖（海区182～185）で比較的強く、噴火湾口部から渡島海域（海区188～194）では弱くなっていました（図1、2）。
3. 調査海域の平均反応量は、9月とほぼ同程度の低い水準でした（図3）。
4. 魚群の本格的な来遊は、昨年同様12月以降になると予想されます。
5. 次回魚探調査は11月末に予定しています。
6. 今後FAX版ではなくメールで直接PDF版の送付を希望される方は、氏名、所属、メールアドレスを明記して下記アドレスまでメールしてください。

アドレス：shidao@fishexp.pref.hokkaido.jp

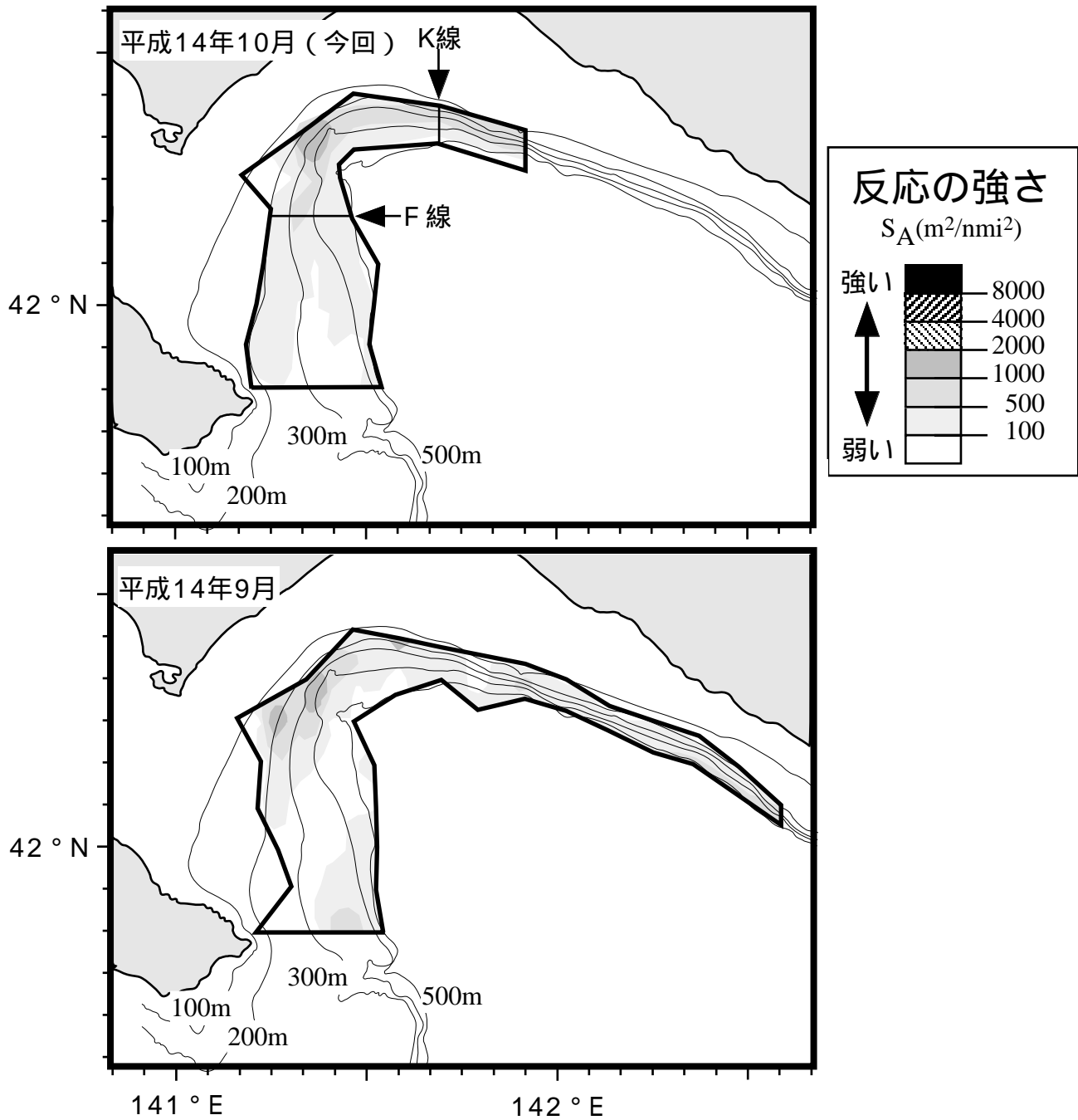
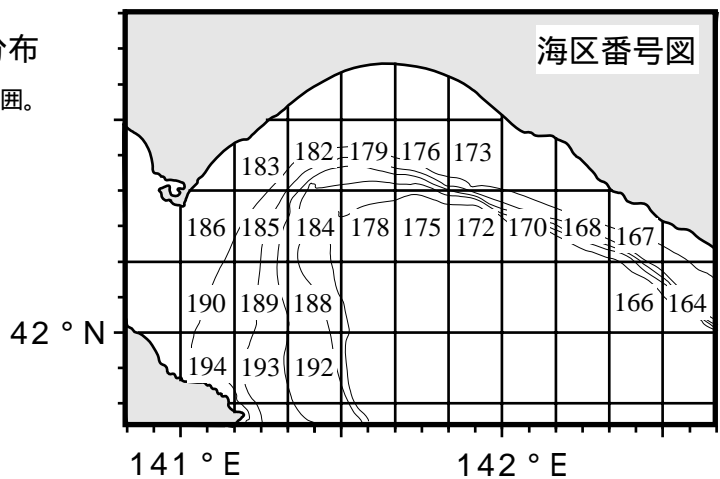
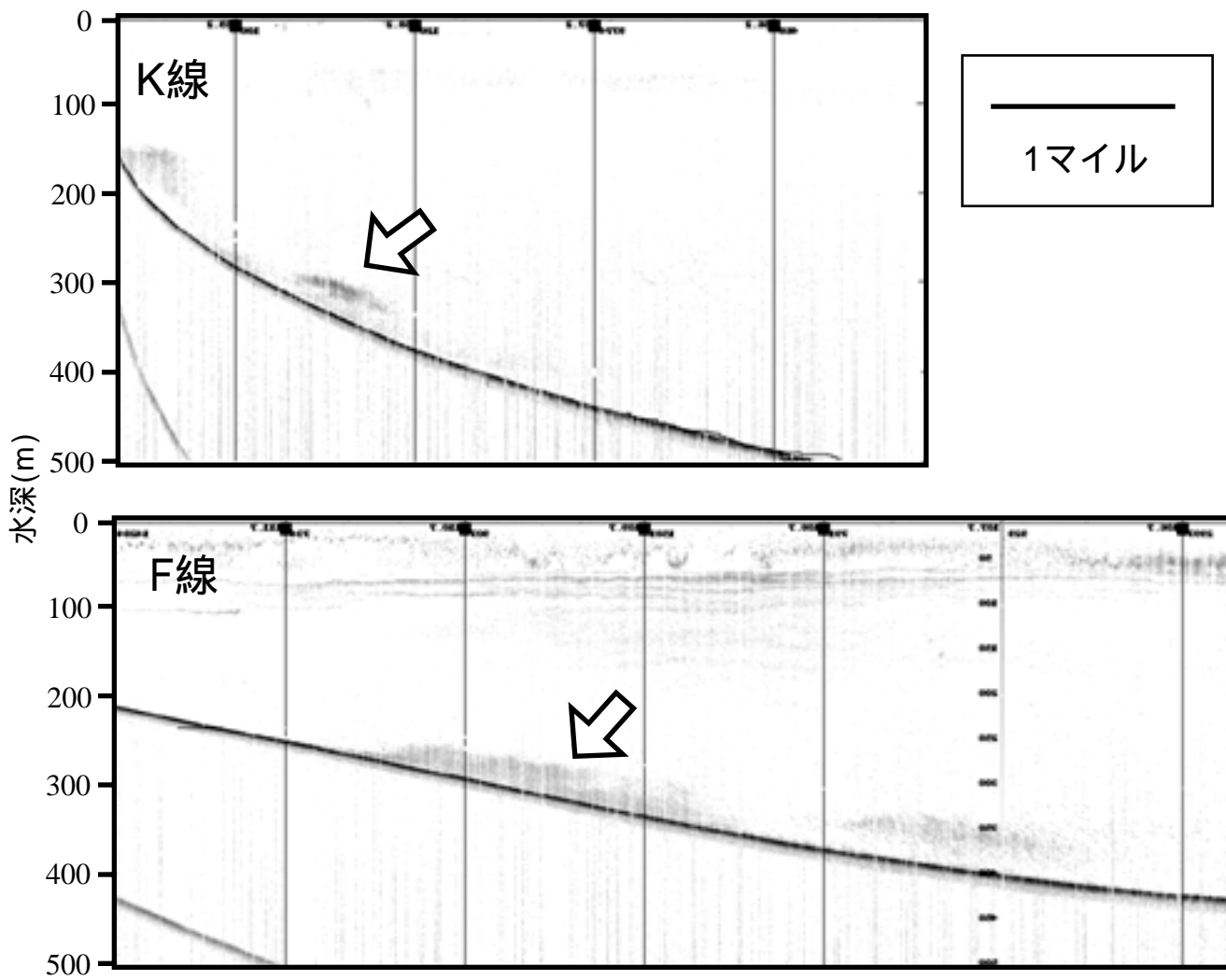


図1. スケトウダラの水平分布
黒枠で囲まれた部分が調査範囲。





➡ : スケトウダラ成魚と考えられる反応

図2 . 10月調査における魚探画像

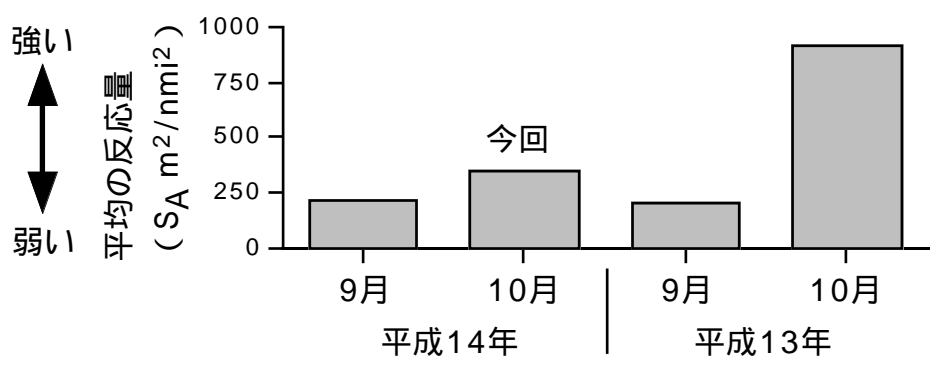


図3 . 調査海域内における平均反応量